

委員派遣実績報告書

令和5年2月7日

米子市議会議長 様

議会運営委員会

委員長 奥岩浩基



委員派遣を行い、所管に属する事務に関する先進地事例について調査を行いましたので、下記のとおり報告します。

記

委員会名	議会運営委員会
期 日	令和5年1月31日(火)
視 察 先 及 び 視 察 内 容	鳥取県倉吉市 ・議会でのタブレット端末の活用について 鳥取県鳥取市 ・議会でのタブレット端末の活用について
参 加 者	【委員長】奥岩浩基 【副委員長】矢田貝香織 【委員】安達卓是、田村謙介、土光均、戸田隆次、又野史朗 【委員外議員】(議会DX推進チーム)津田幸一、森田悟史 【執行部】総務管財課 担当課長補佐 柄川英彦 調査課 課長補佐 宇山芳直 情報政策課 係長 高木健司 【随行】議会事務局 次長 田村美佳 局長補佐 瀬尻かおり 担当局長補佐 森井聖太 係長 長谷川真也
経 費	公用車利用のため経費なし
委 員 会 所 感	別紙のとおり

別紙

(1) 視察の目的

米子市議会で「資料のペーパーレス化」「議会運営の効率化」「議会活動及び議員活動の効率化と、議員の資質の向上」を目的とし、導入検討中のタブレット端末について、県内で既に導入された倉吉市、鳥取市に赴き、事例を学ぶ。

(2) 視察（説明）要旨

倉吉市、鳥取市におけるの議会でのタブレット端末の活用について、下記内容を主に調査させていただいた。

- ・ 導入までの経緯等
- ・ 基本的な活用内容
- ・ タブレット端末のスペック
- ・ アプリケーションソフト
- ・ 通信環境
- ・ 経費負担
- ・ 議会事務局や執行部の事務軽減について
- ・ 導入に当たってのペーパーレス化の検証について
- ・ 会議規則や委員会条例の改正
- ・ 導入の事務手続き
- ・ 導入後に判明したメリットや課題
- ・ 使用基準
- ・ 活用場面
- ・ 資料の取り扱いや共有方法

(3) 主な質疑応答

主な質疑としては、それぞれの市にて下記のものがあった。

① 倉吉市

Q1：タブレットのサイズ、OS、付属品の選定について

A1：サイズー見やすさ、見開きページの利便性等から12.9インチとなった。

OSーセキュリティ等の面からiOSとなった。

付属品ータブレット端末の画面を閲覧するのがメインと

いう想定で打ち込み用のキーボードは不要とした。ペンは書き込みのしやすいように純正とし、紛失防止や充電の利便性から純正カバーとした。

Q 2 : 導入経費について

A 2 : タブレット端末本体、カバー、保護フィルム、ペン、事務手数料を一括して入札発注した。ペーパーレス会議システムは、初期設定費用、利用者講習会費、管理者講習会費を含め、公募型プロポーザルを実施した。(3社が参加)

Q 3 : 使用ユーザー数について

A 3 : スタンドプランの最大50名のものとした

Q 4 : 当局側のユーザーの割当と活用について

A 4 : 資料アップロード担当者が対応しているが、議会答弁者それぞれのアカウントと同一のものを使用するとクラウド内のメモ機能の部分も共有されるため使用には一定のルールを作成し注意が必要である。

② 鳥取市

Q 1 : システムアプリケーションのクラウド内の保存容量について

A 1 : 11GB。

Q 2 : 紙資料との併用による業務負担について

A 2 : 従来の紙資料の作業とシステムアップロード作業と両方の対応が必要となり、現状は負担増となっている。今後は期限を決めて完全ペーパーレス化を検討する必要がある。

Q 3 : 使用に関してのフォロー体制について

A 3 : 事務局が対応している。主なものとしてはタブレット端末の基本的なOS操作。

(4) 視察(説明)要旨に対する委員の考え及び本市の事務事業に参考となる点

このたび、議会運営委員会委員と有志のDX推進チーム、議会事務局、当局側のDX推進チームと合同で倉吉市及び鳥取市の議会事務局へ行政視察を行わせていただいた。

倉吉市は、令和4年12月定例会の各常任委員会においてタブ

レット端末の持ち込みを可能とし、令和5年3月定例会での議場使用に向けて現在調整中であり、鳥取市は、令和3年7月より運用を開始している。

両市議会ともに議会運営委員会や議会改革特別委員会等での検討や協議を重ねられ、メリットと同時に想定される課題事項についても事前に想定された上で導入に至られていた。

また、倉吉市議会の副議長並びに鳥取市議会の議長より、「タブレット端末の導入に当たり、道具として活用するためには、あれやこれや考えるのではなく、「とにかく慣れること」である」との同様の御助言をいただいたのが印象的であった。

また、導入後において現時点での主な課題点としては、今後のクラウド内の保存容量と議員間習熟度の違い、完全ペーパーレス化となっていないことであった。

米子市議会においては、既にDX推進チームにおいて、完全ペーパーレス化の時期や議員間習熟度の違いに対するフォロー体制については協議済であったため、実際導入後の課題としての生の体験談を聞かせていただいたのは今後の糧となった。

また、クラウド内の保存容量に関しては、タブレット端末が導入となり使用していく際にどこかのタイミングで考査が必要なものではあったが、導入開始すぐに大容量が必須ではないことも明らかになった。

現在、米子市議会では来年度のタブレット端末活用と完全ペーパーレス化に向けて準備中であり、参考となる視察であった。

また、タブレット端末導入後も適宜先進自治体の事例を学ぶことの必要性も感じた。